

## 日本都市学会第66回大会のお知らせ

### 1. 開催概要

開催日：2019年10月25日（金）・26日（土）・27日（日）  
開催地：広島県広島市  
主催：日本都市学会・中四国都市学会 後援：広島市（依頼中）  
会場：JMS アステールプラザ

### 2. 大会テーマ 「地方中枢都市における課題と展望」

### 3. スケジュール

#### 【10月25日（金）】

12:30～ エクスカーション

テーマ：「変貌する広島駅周辺地区」

スケジュール(予定)：広島駅北口（新幹線口）～(徒歩)エキキタ地区～広島駅南口再開  
発地区(A～Cブロック)～マツダスタジアム(可能であれば内部見学)～(一次解散)：  
(以下希望者)～(徒歩・路面電車)広島市中心部(進行するオフィスビルの建て替え)  
～(徒歩)袋町小学校平和資料館(解散)

集合場所：12時30分 広島駅北口（新幹線口）2階総合案内所前(集合)

案内者：川瀬正樹（広島修道大学）

予定時間：2時間半程度(一次解散まで)

定員：30名。定員を超えた場合は申込順とします。

参加費：「マツダスタジアム」を見学できる場合の見学料(1人1,000円)

※マツダスタジアムを見学できるかどうかは、広島東洋カープの日本シリーズへの  
進出やその結果如何によるので、未確定です。

※参加費は当日徴収します。一次解散後、路面電車に乗る際には、各自で運賃をお支  
払いください。

18:00～ 理事会

※ 会場：広島市文化交流会館

住所：〒730-8787 広島県広島市中区加古町3-3 4階会議室

(TEL) 082-243-8881 (代表)

#### 【10月26日（土）】会場：JMS アステールプラザ

9:30～ 研究発表 I

13:00～ シンポジウムテーマ 「地方中枢都市における課題と展望」

13:00 開会挨拶 浦野 正樹（日本都市学会会長）

由井 義通（中四国都市学会会長）

13:10 基調講演 「広島駅周辺の再開発」（調整中）

14:00～15:30 パネルディスカッション

趣旨説明：由井 義通（中四国都市学会会長）

パネリスト：阿部 和俊（愛知教育大学名誉教授）

日野 正輝（中国学園大学）

宮本 茂（公益財団法人中国地域創造研究センター）

コメンテーター：寺谷 亮司（愛媛大学）

コーディネーター：平 篤志（香川大学）

- 15：40～ 日本都市学会賞授賞式  
15：55～ 日本都市学会総会  
18：00～ 懇親会（会場：広島市文化交流会館）

【10月27日（日）】会場：JMS アステールプラザ  
9：30～ 研究発表Ⅱ

#### 4. 研究発表の募集

##### (1) 申込資格

発表申込者は会員（入会手続き中のものを含む）に限ります。共同発表の場合、共同発表者全員の氏名を明記するとともに、口頭発表者（1名のみ）に○印（朱書き）をつけてください。口頭発表は一人一回限りとします。なお、発表申込後の共同発表者の変更は認められません。また、共同発表者の中に非会員が含まれていても構いませんが、『日本都市学会年報』に投稿される際には、著者全員が会員である必要があります。

##### (2) 申込方法

研究発表を申し込まれる方は、同封のハガキ、またはハガキと同じ内容を記した電子メールで、下記「大会に関する問い合わせ先」に申し込んで下さい。ハガキ内の「大会テーマ分科会」とは大会テーマに関連を持つ発表を集めた分科会、「自由テーマ分科会」とはそれ以外の分科会です。なお、申込が少ないなどの理由で大会テーマ分科会が成立しなかった場合は、大会テーマ分科会に申し込まれた方も自由テーマ分科会に割り振らせていただくことをご承知おきください。また、発表日については、分科会を構成する都合上、希望はお受けできませんのでご了承ください。

現時点で学会に入会手続き中のために申込用ハガキをお持ちでない方は、官製ハガキまたは電子メールで、下記「大会に関する問い合わせ先」まで申し込んでください。記載事項は、①申込者氏名・所属（院生・学生の場合はその旨を明記）、共同発表者及び口頭発表者氏名、②研究発表の題目（「大会テーマ分科会」での報告を希望する場合は明記）、③自宅住所・電話番号・FAX番号、④所属先住所・電話番号・FAX番号、⑤連絡先電子メールアドレスとします。

いずれも8月10日（土）必着とします。

##### (3) 発表要旨の執筆要領

- ① A4（縦）サイズ、横書きで2枚以内。
- ② 余白は上下25mm、左右19-20mmとし、文字数は横23字×縦45字、2段組、段間9-10mm、2,070字/頁。文字は10ポイント、明朝体。見出しはゴシック。
- ③ 1頁目の上部7行分は1段組とし、タイトル、所属、氏名に使用。2行目にタイトル（14ポイント、ゴシック、中央揃え）、6行目に所属・氏名（10ポイント、ゴシック、右揃え）、本文は8行目から2段組で。年報掲載論文と同じスタイルです。
- ④ そのまま印刷原稿としますので、図表は見やすく貼り付けてください。図のタイトルは図の下部に、表のタイトルは表の上部に、それぞれゴシック、中央揃え、モノクロ印刷で。
- ⑤ 要旨の提出期限は9月17日（火）必着で、送り先は下記の「発表要旨送付先」まで。なお、提出はメール添付によるデータファイルのみ受け付けます。ファイル形式は、PDF形式にくわえて、万が一修正が必要になった場合に備えて

Microsoft Word形式のファイルを提出して下さい（どうしても紙媒体での提出が必要な場合はご相談下さい）。問い合わせがある場合は下記の「大会に関する問い合わせ先」までお願いします。

⑥ テンプレートを日本都市学会 HP に掲載する予定です。ご利用下さい。

#### (4) メール送信後の受信確認

電子メールで研究発表の申込や発表要旨の提出をした場合、担当者から受信確認のメールを送りますので、必ずご確認ください。3日以上経っても受信確認メールが届かない場合は、送信先にお問い合わせください。

#### 5. 出欠確認葉書

研究発表をしない方も、同封のハガキに出席の可否(予定)を記載して返送してください。ハガキと同じ項目をすべて記入した内容をメールで下記「大会に関する問い合わせ先」までお送りいただいても結構です。ただし、メールでお送りいただく際は必ずメールタイトルを「日本都市学会広島大会出欠連絡」として下さい。

#### 6. 発表要旨送付先

yyui@hiroshima-u.ac.jp (担当者：広島大学 由井義通)

※ 件名を「広島大会要旨(氏名)」として下さい。

#### 7. 大会に関する問い合わせ先

〒680-8551 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学地域学部 山下博樹

中四国都市学会事務局

TEL：0857-31-5089(山下研究室) メール：yamasita@tottori-u.ac.jp

※ 問い合わせは出来るだけメールでお願いいたします。

#### 8. 宿泊案内

広島市内の宿泊施設については、野球の試合等のイベントのために残り少なくなっております。広島市内で予約できなかった場合は、東広島市内や呉市内などの近隣市町の宿泊施設をご利用ください。宿泊については各自で早めに予約をお願いします。

#### 9. 会場までのアクセス

##### (1) 最寄駅までのアクセス

大会会場の最寄駅は JR 広島駅になります。最寄駅から会場までのアクセスは、以下の経路を参考にしてください。

##### 市内電車

- ・広島港行（紙屋町経由）－市役所前下車（約8分）
- ・江波行－舟入町下車（約5分）

##### バス

- ・広島バス 24号路線 吉島営業所行または吉島病院行－加古町下車（約3分）

##### 飛行機

- ・広島空港 リムジンバスで JR 広島駅新幹線口まで約45分
- タクシー利用の場合
- ・JR 広島駅から 約15分

\*詳しくは、JMS アステールプラザのホームページをご参照ください。

## 地方中枢都市の課題と展望

日本都市学会会長 浦野正樹  
中四国都市学会会長 由井義通

少子高齢化の進行が加速化する中で、東京一極集中はますます進み、また、三大都市圏をはじめとする大都市圏と非大都市圏の格差も開いている。2014年に日本創生会議人口減少問題検討分科会が出した増田レポートによると、少子化の進行に伴う人口減少によって、存続が困難になると予測されている自治体について、国勢調査を基にした推計から2040年までに全国約1800市町村のうち約半数(896市町村)が消滅する恐れがあるとされた。増田レポートでは、2040年時点に出産可能年齢の95%にあたる若年女性人口(20～39歳)が半減する自治体を「消滅可能性都市」と見なしており、非大都市圏内の青森・岩手・秋田・山形・島根の5県は8割以上の市町村が該当するだけでなく、大都市圏内においても若年女性の少ない、東京都豊島区や大阪市中央区なども「消滅可能性都市」にリストアップされている。

このようなドラスティックな人口転換期において、都市はこれまでの成長都市モデルからの脱却を考慮する時期にあるといえる。企業誘致や大学などを誘致して、雇用機会や就学機会を提供することによって、非大都市圏からの人口を吸収したり、大都市圏間の人口移動によって人口増加を支えてきた時代は永久に継続するものではない。長期的な経済の停滞期にあって新たな雇用を創出することは容易ではない。人口減少の激しい地方都市だけではなく、これまで成長し続けていた大都市圏においても、高齢化に伴う郊外地域の空き家の大量発生が問題となっており、ベビーブーム後の出生率激減期に生まれたベビーバスター世代は、親の高齢化と私生活重視の自分自身のライフスタイルの間で、新たな行動様式をとるようになっている。

さらに、リーマンショック後の経済の再編や平成の大合併、あるいは様々な側面でのグローバル化の進行という過去経験したことのないような社会の変動の中で、新たにサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を目指したSociety5.0が提示されている。これらの大きな状況変化の中で、これまで大都市圏の補完機能として地方経済を支え、大都市圏と非大都市圏のつなぎ役や、地方分権の受け皿的な役割を期待される地方中枢都市の役割や位置づけも大きく変化することが予想される。地方中枢都市はどのような課題を抱え、それらをどのように克服していくのか、大都市圏とは違った今後の地方中枢都市の在り方について検討することが必要である。例えば、地方の中心としての機能の態様だけでなく、国境を越えた諸外国とのネットワークの有無も検討する必要がある。

以上の特徴を考慮しつつ今大会のテーマ「地方中枢都市の課題と展望」について、全国から多くの研究者の参加を得て、創見に富んだ発表と活発な議論を通して、我が国の国土構造の機軸を担う地方中枢都市が抱える課題や今後の展望について闊達な議論が展開されることを期待する。

